

戦後71年 平和を心に刻む

8月14日(日)坂戸駅前集会施設で九条の会さかどが開催した「戦争を語り継ぐ会」で、今回の語り部である鶴舞の前菌成也さんが「平和を願って燃える焦土の電柱」と題して、6歳から9歳にかけての戦争体験をお話ししました。

お話に先立って、紙芝居ボランティアグループあじさいの会の皆さんが、東坂戸の東郷純子さんの平壤から日本への引き上げ体験を描いた『純子さんのねがい』と、動物供出を描いた『マアをかえしてください』と、平和紙芝居の古典とも言うべき『コスモス』を上演し、『ヒロシマの有る国で』を熱唱しました。

参加者からもそれぞれの戦争体験が語られ、活発な質疑応答がなされました。



平和を願って燃える焦土の電柱

鶴舞 前菌成也

1941年(昭和16年)、私が6歳の時「大東亜戦争」が開戦し、1945年(昭和20年)、私が9歳の時終戦しました。私は小学校3年生でした。

私より10歳以上年配の先輩たちが戦場に参戦したわけですし、そういった人たちの体験談は若輩者の私に比べればもっともっと心に迫るものがあるかと思うわけですが、皆さま高齢者になっており、8月8日傘寿を迎えた私が年齢的には最終かもしれません。

今は「戦争」と聞いただけで恐ろしいことだと考えておりますが、当時の世相では全くそうではなかったのです。何故かという、日本はどここの国にも負けることはないと信じていたからです。

早く志願しなければ勝負に乗り遅れると考えていたからですが、やがて敗戦となり、苦杯を舐めて、初めて「恐ろしくないという思い上がり」が如何に恐ろしいことであったかに気付かされたわけです。

戦争が始まった当時、私は鹿児島県でもどちらかといえば南の地方に住んでいました。小学校1年生でした。当時の記憶のままにお話しさせていただきます。

授業中、米軍の飛行機からの銃弾が5～6発黒板を貫通したことがありました。学校と防空壕を行ったり来たりの日々が続きました。また、下校途中、2つ年下の後輩が銃弾を受け、即死したこともありました。

戦争が終わる1週間前、私が住んでいた800戸の集落は戦災にあい、全戸数のほとんどが焦土と化しました。集落のほとんどが藁葺か木造の住宅でしたので、火の回りは急速でした。手押しポンプの消防では為す術ありませんでした。

我が家も焦土と化しました。焼け跡に残った一本の電柱だけが、闇夜を煌々と照らしておりました。その電柱が鎮魂の祈りの蝋燭に見えたことが、今でも心に深く刻まれております。

焼け跡を片付ける間もなく敗戦の知らせを受け、米兵の上陸を恐れた一家は、少量の荷物を持って山の奥へ山の奥へと獣道を逃避しました。

1週間山奥に身を潜め、村の安泰を見計らって焼け跡に帰りました。いよいよそこから復興のスタートでした。当時45歳だった父が「経済が10年後戻りしたか」と呟いた一言が胸に深く刻まれております。

現在のような福祉制度があったわけでもなく、物資の乏しい中、全て自己責任での復興の始まりでした。

戦争の恐ろしさは言うまでもありませんが、戦後復興の辛さは想像を絶するものでした。先ず食糧難で、栄養失調に加えて疫病による死者も続出しました。

沖縄に於ける大量の死者、広島・長崎の原爆問題は戦後70年経っても永遠に残り、忘れられない問題だと思っております。

戦争は一過性のものでなく、その爪痕は計り知れない重大なことです。当然ながら戦争は反対です。「戦争法」などもってのほかです。(感想は次号に掲載)



坂戸の戦跡めぐり

日時 10月16日(日)13時30分～17時
集合 坂戸中央公民館2階学習室B(解散も)
内容 説明後、主に入西地域の戦跡を車でまわり、飛行場造成に伴い転居した当事者と懇談
申込み 先着20名(049-283-4723(FAX兼)栗原)

戦跡めぐりのご案内

郷土の歴史を学びあい、戦争の悲惨さや愚かさを知り、平和への想いを新たにすることを目的に、今年も坂戸の戦跡めぐりを実施します。

今回は、入西地域を中心とした戦跡めぐりを通じて、坂戸が軍事都市であったことと被害を知ることができる戦跡です。

陸軍坂戸飛行場は、戦争末期の空襲で兵舎や飛行機が炎上し、陸軍飛行士官学校は満州へ、兵舎は鶴ヶ島の雷電池脇に移転。飛行機は鶴ヶ島の高徳神社へ避難、飛行機の部品は鶴ヶ島第二国民学校（現在の鶴ヶ島第二小学校）に運びました。

飛行機の整備部隊兵（通称つばめ部隊）150名は、入西国民学校（現在の入西小学校）高等科棟を兵舎とし、整備機器は校庭に野ざらし状態でした。学校が兵舎にされたことは『坂戸市史』に記載なく、この見学を通じて坂戸の歴史を新たに知ることができます。

戦跡見学後、坂戸の飛行場で移転した当事者との懇談も予定しています。（文責 大久保俊秀）

- 日 時 10月16日(日)13時30分～17時
- 集 合 坂戸中央公民館2階学習室B（解散も）
- 主 催 九条の会さかど
- 後 援 坂戸市・坂戸市教育委員会
- 参加費 無料
- 申込み 先着20名（049-283-4723(FAX兼)栗原）
- 締切り 10月13日(木)

「コンサートと講演のつどい」へのお誘い

講師 アーサー・ビナード氏

第一部は日本フィルハーモニーのメンバーでヴァイオリン奏者の松本克巳さんと川越生まれ川越育ちのフルート奏者の隈倉麦さん、ピアノ伴奏の相馬泉美さんの演奏があります。

「美しく青きドナウ」、「愛の喜び」などなじみのある素敵な曲目のほか、松本克巳さんの友人であった故坂本弁護士一家への思いを込めた「愛と哀しみのソナタ」他を演奏していただきます。

第二部で講演をお願いしているアーサー・ビナードさんは日本語での詩作を始め、詩集、翻訳詩集、絵本、エッセイ集など多数の著書があり、日本人の妻と日本に住み、日本語が堪能ということだけではなく、日本文化にも造詣が深い方です。



テレビ・ラジオでのトークはウイットに富み、言葉の持つ深い意味とそれを利用しようとする輩のカラクリを見事に暴いてくれます。国際感覚を持ち、世界を見渡している辛口の批評眼にはハッとさせられるものが多々あります。

素敵な音楽と歯に衣着せぬ自由な発想でのトークを多くの人に聞いていただきたいと願っています。ぜひ皆さんお誘いあわせの上おいでください。お待ちしております。

- 1部 ヴァイオリンとフルートのコンサート
- 2部 アーサー・ビナード講演会
「この国のこれからを本気で考えましょう」
—アメリカの51番目の州になりますか?—
- 日 時 9月11日(日)開場13時、開会13時30分～
- 会 場 ウェスタ川越大ホール
- 参加費 大人999円、中高校生500円、小学生無料
- 主 催 「九条の会」かわごえ連絡会
- 後 援 川越市・川越市教育委員会
- 申込み 090-6542-3952(川越「九条の会」勝俣)

坂戸の戦跡(10)

千代田・福泉寺跡

千代田 大久保俊秀

江戸中期1740年代創建で関間新田（現在の関間）の菩提寺であった福泉寺は、陸軍坂戸飛行場造成のためこの地を追われてしまいました。

福泉寺は坂戸町大字関間新田字稲荷塚208番地2にあり、現在の筑波大学付属坂戸高校敷地北側の体育館の辺りです。高校の正門東側の塀と、寺の入口のため屋号が「寺前」であった森田宅との間が寺の参道で、参道の右に寺が参道の左に墓地。福泉寺が管理していた富士浅間神明合祀社（現在の関間神明神社）は、参道の先をやや左に折れ北に向かった、現在の稲荷久保公園の辺りにありました。

わずか6ヵ月で更地にしなければならず、墓は永源寺と関間の共同墓地に。寺は2年後、中板橋駅脇のプールの跡地と劣悪な場所（現在でも墓地は1.5m程低い）に移転。物資不足のため熊谷から小さな堂を移築し本堂として再建、しかし1945年4月13日の板橋空襲の被害にあい一時浅草に避難していました。

福泉寺の延命地蔵は150名という坂戸最大の造立者数で、貴重な文化財の流失は残念ですが、1950年から中板橋地蔵と呼ばれ商店街復興のシンボルとなっています。

戦争の被害に翻弄された福泉寺は、現在板橋区中板橋29-2の東上線中板橋駅上りプラットホーム脇に立ち、戦争の酷さを伝えています。

戦争の被害に翻弄された福泉寺は、現在板橋区中板橋29-2の東上線中板橋駅上りプラットホーム脇に立ち、戦争の酷さを伝えています。

今後の運営委員会(会員なら誰でも参加できます)

9月29日(第4木曜が休館のため第5木曜)10時～12時
北坂戸出張所内「坂戸市市民活動交流フロア」会議室
(溝端公園に面した「埼玉りそな銀行の看板」が目印)

◎会場廃止につき10月以降は北坂戸駅東口での開催！
10月27日(木)、11月24日(木)、12月22日(木)10時～12時
北坂戸にぎわいサロン（北坂戸駅東口：城西大学）
北坂戸駅東口を背にして、駅前ロータリーの正面左側